

サクランボ雇用193人

主産 4JA管内 不作も2年連続増

サクランボの主産地4JA管内では今年、県内の他、14都府県から193人の雇用を確保した。天候不順で作柄が芳しくなく、求人、求職者が昨年より大幅に減る中、雇用は4人増え、2年連続で増加した。ただ、県外からの雇用は昨年より20人も減少し、作業従事者の宿泊と足の確保を含めた広域的で総合的な労働力確保の取り組みが引き続き課題となっている。

労働力確保の状況は7月29日、山形市の県JAビルで開かれたJAグループと報道機関との広報懇話会で、JAグループ山形地域・担い手サポートセンターが明らかにした。

それによると、さくらんぼひがしね、さがえ西村山、てんどう、やまがたの主産地4JAの無料職業紹介所を通じた求人は460人、求職者は286人だった。求人、求職者ともに昨年より43人少なく、県外からの求職

者は昨年の92人から56人にとどまった。

今年は着果数が少なかった上に、6月に入ってから雨続きで玉の肥大が進まず、農家からの求人の動きも、主力の「佐藤錦」が最盛期に入る前の6月上旬から鈍くなった。

一方で求人、求職者間でマッチングの結果、193人の雇用が成立し、一昨年の131人、昨年の189人をさらに4人上回った。

者で、青森や岩手、宮城の他、東京や茨城、神奈川、京都、福井、大阪、福岡など14都府県から季節作業員などが働きに訪れた。被雇用者は20～70代の男女で、3～5月から6～7月までの長期雇用者もいた。就労先は東根市が26人で最も多かった。

ただ、県外からの就労者は昨年より20人少なく、福井と東京から訪れた60～70代の男性は、車中泊しながら作業に従事した。

どの関係機関・団体が連携するオール山形による、あの手の手の対策が少しずつ浸透し、不作の中でも雇用の微増という一定の成果となって表れ始めた。一方で、宿泊や交通の確保など、労働力を受け入れる側の環境整備も求められる。

JAグループ山形が昨年3月開設した全国求人ウェブサイトへの3～7月の総訪問者（アクセス）数も2030人で、昨年より184人少なかった。

地域・担い手サポートセンターは、県内外の交通・宿泊施設などに初めてリーフレットを配布し、メディアやインターネットなどを通じて労働力の確保に力を入れた。県や産地市町、JAな